

# 令和元年度学校運営連絡協議会実施報告書

令和2年3月27日  
東京都立板橋高等学校

## 1 組織

- (1) 都立板橋高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主任教諭(進路指導主任)=事務局長、副校長 計2名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長、経営企画課（室）長、主幹教諭(教務担当)、主幹教諭(生活指導担当)、進路指導主任、主幹教諭(保健庶務担当) 計10名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）  
学識経験者(大学教授)、近隣中学校長、近隣小学校長、近隣自治会長、警察署スクールサポーター、同窓会長、PTA会長、PTA顧問 計9名

## 2 令和元年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
  - 第1回 令和元年6月28日（金曜）内部委員10名、協議委員6名  
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出  
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題  
本校の現状と課題等説明、意見交換
  - 第2回 令和元年11月29日（金曜）内部委員10名、協議委員7名  
これまでの教育活動に関する報告、協議委員からの教育活動に対する意見、  
学校評価の内容検討、協議
  - 第3回 令和2年2月10日（月曜）内部委員9名、協議委員3名  
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議  
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
  - 第1回 令和元年11月29日（金曜）内部委員2名、協議委員2名  
学校評価の基本方針の確認、実施に向けた検討、今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、  
実施時期の検討
  - 第2回 令和2年2月10日（月曜）内部委員2名、協議委員0名（コメント資料あり）  
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

## 3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点  
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12月	全校生徒	対象：803人	回収：702人	回収率：87%
・12月	保護者全員	対象：720人	回収：701人	回収率：59%
・12月	地域・住民	対象：32人	回収：16人	回収率：50%
・12月	教職員	対象：46人	回収：33人	回収率：72%
- (3) 主な評価項目  
・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、ライフ・ワーク・バランスの推進
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
  - 全体として年々、肯定的評価が上がっている。学校が良くなってきている。生徒の状況に関する質問に対して、生徒や保護者より教員の肯定的評価が少ない傾向にある。生徒の大多数は肯定的な自己評価が多いが、少数手のかかる生徒がおり、教員の意識がそちらに引っ張られて評価が低くなる。
    1. 85%の生徒が学校生活に満足。
    2. 主体的な学習習慣が身についていく傾向にある。先生の見方はそうした傾向にない。
    3. 読解力について、過年度と比べて改善してきているが、まだ教員の見方はそうした傾向になく、実際の学力としても板橋高校の生徒の読解力には問題があると見て良い。
    4. 学力をつける授業  
○80%強の生徒が、先生方の授業が「学力をつける授業」と感じている。生徒が教員を信頼している。
    5. 学習時間  
○かなり低い。学校としても学習時間をいかに確保するのか、喫緊の課題。その中で、板橋高校では図書

館がよく活動している。

#### 6.特進クラスについて

○学習について「特進クラス」のイメージが良い方向に向いていることは良いことと感じる。

○高1生徒と保護者とは、同じ傾向にある。

7.学校行事・生徒会活動には、○70%の生徒が評価している。

#### 8.部活動

○85%の生徒が評価している。よい流れと考える。

#### 9. 学校生活のルール

遅刻や身だしなみ指導について、学校の取り組みは評価できる。一方で交通ルールの遵守の観点、地域との連携、警察との連携も図っていかなければならない。

#### 10.教育相談等

○相談できる先生がいるが69%ということは、先生方が日々の授業で目配りをしている証しである。

○今後も、生徒と先生がカウンセリングできる環境を整備していく必要がある。

#### 12.進路の実現につながる指導

○約70%の生徒が評価している。

#### 13.将来の目標の意義

○80%弱が評価している。先生の見方はややそういう傾向にない。

#### 14.体罰根絶

本来は「A.よく当てはまる」が100%であるべき項目。分析が必要である。

### 4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

#### (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

全般を通じて、教員の自己効力感が低い。もっと教育活動の効果や成果の上がっている面、成果の上げられている生徒を意識してもよい。

#### (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・近隣の住民は、学校の施設をより一層活用したいと望んでいることが分かった。
- ・より適正な評価を行うためには、協議委員に対して、もっと情報提供すべきである。
- ・より回答しやすい、アンケートの実施方法を工夫すべきである。

### 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

#### (1) 学校運営

特進クラスのありかたと部活動推進について

- ・検証する必要がある。部活動との関係も整理できていない。
- ・特進のあり方も、文武両道モデルを目指させるように、どう見せるかという視点で、総合的に考える。
- ・生徒の中に特進クラスのイメージ（存在意義）が、もてるようにする。
- ・部活動について評価していない生徒が何をしているのか、目を向けていく必要もある。
- ・部活動と、教員の勤務・負担についても考えていかなければならない（外部人材の活用等）

#### (2) 学習指導

- ・生徒が自発的に勉強する方策、生徒に学力をつけさせる取組を、学校として考えていく必要がある。
- ・生徒の意識が学校に定着し、目を向けて活動し、勉強への価値を感じさせる意識付けをする。
- ・目的意識・興味関心をもたせる、ように目標の明示し、勉強はするものと思わせる。
- ・「強制的にやらせること」と「内的動機づけ」の二本立てを、システムも含め組み立てていく。
- ・進学希望以外の生徒もいる中で、どう勉強への意欲を引き出すか、必要なことをしっかりやらせるか。
- ・文武両道の目指すべき姿を見せ、それを生徒が目指し、それがまた目指す姿になっていくというサイクルになるとよい。そこへのビジョンをどう示していくか。
- ・総合的にしか変わっていかない、すぐには変わっていかない。戦略が必要。
- ・反転学習的な(事前に資料を読んでくる必要性を仕込んだ)授業を目指す方向も考えられる。

#### (3) 情報発信

- ・地域や、保護者にも、学校のことがよく知られてはいない。
- ・Classi等を、保護者も含め更に活用できるようにする。
- ・地域等への情報発信の方法や量など工夫が必要。
- ・地域だけでなく、同窓会の人たちも、HPはあまり見ていない。アナログな発信だが、学校だより、外部向け掲示板の活用など、イベント事の案内、教育活動への理解等、学校での教育活動がやりやすくなるためにも必要。
- ・生徒がボランティア活動を行うなど等地域に出ていくこと、それをアピールすることも必要。

### 6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう 思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	分からない	無回答
4	5					1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 なし

8 その他

- ・保護者のアンケート回収率を更に高めるため、質問内容を含め検討の必要がある。
- ・評価精度の更なる向上のため、学校公開の機会を増やしていく。